

# 早稲田社会学会ニュース

第60号

2022年10月28日発行

早稲田社会学会事務

〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1

早稲田大学文学部 社会学研究室内

Tel: 03-5286-3742

E-mail: socio-office@list.waseda.jp

URL : <http://www.waseda.jp/assoc-wss/>

## 今回のニュースの内容

1. 第74回早稲田社会学会大会の報告
2. 第74回早稲田社会学会総会の報告
3. 2022年度研究助成について
4. 入退会者のお知らせ
5. 学会費納入のお願い
6. 事務局よりお願い

## 1. 第74回早稲田社会学会大会の報告

第74回となる今年度の学会大会は、2022年7月2日（土）、コロナ禍のもと、ZOOMミーティングを用いてオンラインでの開催となりました。幸い50名以上の参加をいただき、活発にご討論いただきました。

報告者および報告題目、司会者、討論者は次のとおりです。

一般研究報告（10:30～12:00）

報告者：

小林信重（東北学院大学）「「遊びの時代」の「遊び人」——1972年の堀井雄二と早稲田大学漫画研究会」

池本紗良（早稲田大学）「高校全員入学運動における「母親であること」の両義性——運動に参加した母親の教育関心の変化に着目して」

津多成輔（島根大学）「A高校の進路指導において学力向上が重視される論理——和歌山県紀南地域にUターン就職をした教師の語りから」

司会：栗原亘（高千穂大学）

シンポジウム

テーマ：「関係」の現在を考える——コロナ禍以降の研究・調査・実践

報告者：

関水徹平（立正大学）「オンラインでの調査・研究の経験から考える、学知の生成・伝達の変容——身体の現前に着目して」

武田俊輔（法政大学）「コロナ禍状況における遠隔地のフィールドワーク——祭礼をめぐる関係性・身体性の変容と調査の現況」

檜村愛子（愛知大学）「コロナが可視化した「身体」「場」の構造——コミュニケーション資本主義とニューロダイバーシティの観点から」

コメンテーター：嶋崎尚子（早稲田大学）・石田光規（早稲田大学）

司会者：本多真隆（明星大学）・高橋かおり（立教大学）

### シンポジウム報告

本年度の大会シンポジウムは「『関係』の現在を考える——コロナ禍以降の研究・調査・実践」をテーマに、それぞれの調査や教育の現場を踏まえたうえでの社会学的な理論的志向や議論の可能性について、3名をお招きしてご報告いただいた。

大きな社会変動にともなう「関係」や秩序の変化をつかみ、記述するという社会学の基本的な関心に立ち返りつつ、コロナ禍において調査者と調査対象者を含めた人々の「関係」がそれ以前からどのように変わり、またこの変化を踏まえどのように「知」を生み出すかという点から、本シンポジウムは企画された。

関水徹平氏の報告「オンラインでの調査・研究の経験から考える、学知の生成・伝達の変容——身体の前前に着目して」においては、ひきこもりのフィールド調査や共同研究でのコミュニケーション、あるいは講義や授業における場面を事例に、身体から得られる情報が学知の伝達において重要な要素になっていること、オンライン下での相互作用の拡大が身体を前提としたコミュニケーションを変容させる可能性が論じられた。

武田俊輔氏の報告「コロナ禍状況における遠隔地のフィールドワーク——祭礼をめぐる関係性・身体性の変容と調査の現況」では祭礼へのフィールドワークを事例に、祭礼の現場ではオンラインを活用することで外部への開放性を担保しつつ、各祭礼間や専門家・研究者とのネットワークによって、コロナ禍での知見が共有され、伝統の中に新たな変化が起こりつつあるという状況についてその可能性が示唆された。

檜村愛子氏の報告「コロナが可視化した「身体」「場」の構造——コミュニケーション資本主義とニューロダイバーシティの観点から」では、コロナ禍での実践や教育の様々な場面を事例に、コロナ禍においてこれまでの日本社会が抱えていた様々な問題が表面化していること、その中でこれまでとは異なったコミュニケーションの方法や手段、社会モデルが必要であることが説かれた。

報告を受け手コメンテーターからなされた全体的な討論事項としては、コロナ禍の経験についての観測時点効果をどうとらえるのか、負の経験や語られない経験を含む「コロナ禍」という経験をいかに継承して行くのか（嶋崎尚子氏）、コロナ禍を経て私たちは対面とオンラインをいかに組み合わせ調整していくのか（石田光規氏）といった点などが問題として提起され、各報告者からの応答がなされた。いずれの報告者の議論も2022年時点の思考を共有し、それをもとに議論するものであり、今後の社会変化に応じた新たな「知」を生み出す手がかりの可能性が、それぞれに示された。

（立教大学：高橋かおり、明星大学：本多真隆）

## 2. 第74回早稲田社会学会総会の報告

2022年7月2日（土）、大会終了後に、引き続きZoomミーティングを用いてオンラインにて、2022年度早稲田社会学会総会が開催されました。

### 1. 議長選出

麦倉泰子氏（関東学院大学）が選出されました。

### 2. 議事

#### 2-1 報告事項

- 1) 理事会活動報告（岡本庶務担当理事）
- 2) 研究活動委員会活動報告（石倉研究活動担当理事）
- 3) 編集委員会活動報告（池田編集担当理事）
- 4) 2022年度研究助成の申請について（草柳庶務担当理事）

#### 2-2 審議事項

- 1) 2021年度決算の件（嶋崎会計担当理事）  
※添付の決算報告をご参照ください。
- 2) 会計監査報告の件（池岡監事）
- 3) 2022年度予算の件（嶋崎会計担当理事）  
※添付の予算報告をご参照ください。

## 3. 2022年度研究助成について

2021年度の申請について申し込みはありませんでした。

なお、研究助成の趣旨に賛同される方からのご寄付も募っております。寄付については事務局にお問い合わせ下さい。

## 4. 入退会者のお知らせ

理事会において以下 1 名の入会が承認されました。（以下、敬称略）

2022年 7 月 2 日 野上元（早稲田大学教育・総合科学学術院）

理事会において以下の 7 名の退会が承認されました。（以下、敬称略）

2022年5月21日理事会 徳安慧一

2022年5月21日理事会 飯田崇文

2022年5月21日理事会 秋山飛鳥

2022年5月21日理事会 今井隆太

2022年5月21日理事会 富永京子

2022年5月21日理事会 関 淑

2022年5月21日理事会 劉 泰佑

## 5. 学会費納入のお願い（未納の方へ）

今年度の学会費をまだお振り込みいただけていない方は、お振り込みくださいますようお願い申し上げます。

年会費：一般会員 5,000円 学生会員 3,000円

口座番号：00100-3-38020（郵便振替）

加入者名：早稲田社会学会

複数年度分の会費を納入される場合、および転居・異動などがあった場合には、別途メールにてその旨をお知らせください。なお、年会費の納入記録についてのお問い合わせなどがありましたら、事務局（socio-office@list.waseda.jp）までご連絡ください。

## 6. 事務局よりお願い

### ■事務局への連絡はできるだけメールでお願いいたします。

今般の状況下、事務局では実務の多くをオンラインで行っております。学会事務局へのご連絡等は、できるだけ郵便でなくメールにてお願いいたします。郵便の場合、対応が大変遅れる可能性があります。いろいろとご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

### ■学会費の納入にご理解とご協力をお願いいたします。

近年、学会費納入率が低下しており、学会運営に支障をきたしております。コロナ禍当初には「郵便振替払込書」を郵送することができず、学会費の納入状況が大変低下しました。その後現在もあまり芳しくない状態が続いております。会員の皆様には、引き続き、早稲田社会学会活動にご理解いただき、会費を納入いただけますよう重ねてお願いいたします。

以上